



Title	ンデンドウレ語の音韻概要
Author(s)	米田, 信子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2002, 12, p. 129-145
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/71103">https://doi.org/10.18910/71103</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# ンデンデウレ語の音韻概要

米 田 信 子

## 1. はじめに

ンデンデウレ (Ndendeule) 語は、バンツー諸語のひとつでタンザニア西南部に位置するルブマ州の東部で話されている。本稿では、2001年7月～8月に行なった現地調査で収集したデータをもとに、ンデンデウレ語の音韻概要を報告をする。インフォーマントの Raphael R. Njogopa は1956年生まれの男性で両親ともンデンデウレ人である。ンデンデウレ人の中心的な居住地であるナマベンゴ(Namabengo)村に生まれ、以来ずっと同じ村に住んでいる。ンデンデウレ語の他にスワヒリ語を話す。

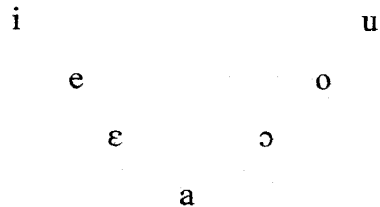
この言語は Guthrie (1967) の分類には挙げられておらず、隣接地域で話されている「ンゴニ語 (N12)」と混同されることが多い。彼ら自身も他者に対しては、自らを「ンゴニ人」、自分たちの言語を「ンゴニ語」と呼ぶことがよくある。しかしながら歴史的に見れば、ンデンデウレ語と言語的に近いのは少し離れたルブマ州西部で話されているマテンゴ語であって、ンデンデウレ語とンゴニ語とは全く別の言語であることがわかる。

ンデンデウレ人が現在のようなひとつの「民族」としてまとまったのは150年ほど前である。当時ルブマ州中央に位置する平野に暮らしていた人々は、19世紀中ごろに南部アフリカから来たンゴニ人の侵攻を受け、その地を追われることになった。その際に西側の山岳地帯へ逃げた人々は「マテンゴ」と呼ばれる民族グループとしてまとまり、東側へ逃げた人々は「ンデンデウレ」<sup>1)</sup>としてまとまったと言われている (Ebner 1987:46, Gulliver 1955:27)。つまりンデンデウレ人とマテンゴ人は、他者からの攻撃を受けたことによって同じところに住んでいた人々が分かれてできあがった民族グループである。言語についても、現在のンデンデウレ語とマテンゴ語は、かつては同じ地域に暮らす人々が用いていたのであるから、同じ言語(の変種)であったか、あるいは極めて類似する言語であったと考えられる。なおマテンゴ語についての詳細は米田(2000)を参照されたい。

## 2. 母音と子音

### 2.1. 母音

ンデンデウレ語の母音体系は次のとおりである。



語末に位置する i, u は、それぞれ ε, ɔ と交替が可能である。

/ kiβoŋki /	[kʰiβoŋgi] ~ [kʰiβoŋge]	「ひたい(sg)」
/ litaku /	[litʰa:tu] ~ [litʰa:ɔ]	「お尻(sg)」

#### 2.1.1. 鼻母音化

音素としての鼻母音はないが、鼻音に後続すると鼻母音化する。鼻母音化は鼻音以外の子音によってさえぎられるが、/h/と/w, j/ は例外で鼻母音化をさえぎらない。

/ maβele /	[mãβe:le]	「乳房(pl)」	
/ mahupa /	[mãhũ:pa]	「骨(pl)」	cf. /lihupa/ [lihu:pa] 「骨(sg)」
/ mwana /	[mwã:nã]	「子(pl)」	cf. /βana/ [βa:nã] 「子(sg)」
/ mjeli /	[mjẽ:li]	「体(pl)」	

#### 2.1.2. 母音調和

舌の高さによる母音調和が見られる。派生辞がつく場合は、その前にある母音と調和する。動詞語尾を除けば、語中に /e, o/ と /ε, ɔ/ が共起することはない。

派生辞 -il-	/ a, u, i / の後ろ	-butuk- + -il- → -butukil-
	/ o, e / の後ろ	-homb- + -il- → -hombel-
	/ ɔ, ε / の後ろ	-som- + -il- → -somel-

### 2.1.3. 長短の対立

ンデンデウレ語には母音の長短に音韻的対立は見られない。文末及びポーズの位置から2つめの音節（以下「次末音節」とする）の母音が基本的に長く発音されるため、音声的には長母音も現われるが、長母音と短母音の音韻的対立を示すものではない。母音に関してンデンデウレ語とマテング語の最も顕著な違いはこの点である。マテング語には母音の長短に対立があり、次のような最小対が存在する。

#### <マテング語>

/ kudʒoβa /	「隠れる」	/ kudʒo:βa /	「皮を剥ぐ」
/ kukelela /	「肉をばらす」	/ kuke:lela /	「熟す」

### 2.2. 子音

ンデンデウレ語の子音は以下のとおりである。

	両唇音	歯茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音 (vl)	p	t			k	
(vd)			d			
摩擦音 (vl)		s				h
(vd)	β			ʒ	ɣ	
側面接近音		l				
鼻音	m	n		ɲ	ŋ	
半母音	w			j		

#### cf. <マテング語>

	両唇音	歯茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音 (vl)	p	t			k	
摩擦音 (vl)		s				h
(vd)	β				ɣ	
破擦音 (vd)				dʒ		
側面接近音		l				
鼻音	m	n		ɲ	ŋ	
半母音	w			j		

### 2.2.1. 有気音と無気音

無声閉鎖音の有気音と無気音に音韻対立はない。必ず有気音 ([p<sup>h</sup>], [t<sup>h</sup>], [k<sup>h</sup>]) で現われるのは語頭と次末音節である。末尾音節ではどちらも聞かれる。それ以外の環境では無気音 ([p], [t], [k]) で現われる。

/ lupalo /	[lup <sup>h</sup> a:lɔ]	「ふるい (sg)」
/ lipapu /	[lip <sup>h</sup> a:p <sup>h</sup> u] ~ [lip <sup>h</sup> a:pu]	「肺 (sg)」
/ lipapanilu /	[lipapani <sup>h</sup> lu]	「肩甲骨 (sg)」
/ itompi /	[it <sup>h</sup> o:mbi]	「山 (pl)」
/ ŋkati /	[ŋga:t <sup>h</sup> i] ~ [ŋga:ti]	「~のような」
/ itun <sup>h</sup> kua /	[itun <sup>h</sup> gu:a]	「たまねぎ (pl)」
/ kiβeya /	[k <sup>h</sup> iβe:ya]	「土鍋 (sg)」
/ lihuki /	[lihu:k <sup>h</sup> i] ~ [lihu:ki]	「汗」
/ likalan <sup>h</sup> ki /	[likala:ŋgi]	「酒用大鍋 (sg)」

### 2.2.2. 有声音と無声音

ンデンドウレ語の閉鎖音には有声と無声の音韻対立がない。無声閉鎖音 /p/, /t/, /k/ は、鼻子音に先行される環境ではそれぞれ有声閉鎖音 [b], [d], [g] で現われる。

/ lutumpɔ /	[lut <sup>h</sup> u:mbɔ]	「腹 (sg)」
/ liyɔntɔ /	[liyɔ:ndɔ]	「ワニ (sg)」
/ kukonka /	[kuk <sup>h</sup> o:ŋga]	「結ぶ」

また無声摩擦音 /s/ は有声破擦音 [d<sub>3</sub>] を異音にもつ。鼻子音に先行される環境では、/s/ は [d<sub>3</sub>] で現われる。

/ lizunsu /	[lizu:ɲd <sub>3</sub> u]	「かかと (sg)」
-------------	--------------------------	------------

ただし鼻子音の後ろのこのような現われ方は、いずれも同調音点の鼻子音と子音結合(後述)した場合だけであり、音節主音的鼻音に先行された場合には別の現われ方をする。これについては 2.2.7.① で述べる。

### 2.2.3. 摩擦音と閉鎖音・破擦音

2.2.2.で述べた無声閉鎖音・無声摩擦音の異音である有声閉鎖音[b], [g]と有声破擦音[dʒ]は、有声摩擦音の異音としても現われる。/β/, /ɣ/, /ʒ/が音節主音的鼻音に先行されるとき、それぞれ[b], [g], [dʒ]で現われる。

/tumβutukila/	[tʰumbutukʰi:la]	「我々は彼を追いかける」
/tumɣaβila/	[tʰuŋgaβi:la]	「我々は彼に配る」
/tumʒempila/	[tʰupdʒembe:la]	「我々は彼のために歌う」

ただしこれらは音節主音的鼻音/m/に先行された場合だけである。有声摩擦音が主音節的鼻音以外の鼻子音(/n/)と重なる場合の現われ方は2.2.7.①で述べる。

### 2.2.4. 摩擦音の口蓋化

有声摩擦音/ʒ/は、前舌母音以外の母音/u, o, ɔ, a/が後続すると口蓋化して[j]のように実現される。さらに摩擦が弱まって[j]のように発音されることもある。これは後続する母音が/ɔ, a/の場合に特によく聞かれる。

/kuzanika/	[kʰujanĩ:ka]	～	[kʰujanĩ:ka]	「乾かす」
/kuzɔnsa/	[kʰujɔ:ndʒa]	～	[kʰujɔ:ndʒa]	「捕まえる」
/kuzoβa/	[kʰujo:βa]	～	[kʰujo:βa]	「隠れる」
/mpeʒu/	[mbe:ju]	～	[mbe:ju]	「種」
/kuzɛla/	[kʰuʒɛ:la]			「熟す」

### 2.2.5. 側面接近音

/l/は音節主音的鼻音/m/に先行されると[ɺ]で現われる。

/mlamɔ/	[ɺɺã:mɔ̃]	「義兄弟 (sg)」
cf. /βalamɔ/	[βala:mɔ̃]	「義兄弟 (pl)」

### 2.2.6. 鼻子音

鼻子音/m, n, ɲ, ŋ/は、母音の前だけでなく半母音以外の子音の直前にも位置すること

ができる。その場合はそれらの子音と同調音点で現れる。ただし /l/, /h/ の前ではそれぞれ [ŋ], [ŋ] で現われる。

## 2.2.7. 子音結合

### ① 鼻子音 + 無声閉鎖音・無声摩擦音

無声閉鎖音と無声摩擦音 /s/ は同調音点の鼻子音と子音結合する。その際、閉鎖音と摩擦音には有声化が起こる。また摩擦音は口蓋破擦音で実現されるため、鼻子音も口蓋音で現われる。それぞれの例は 2.2.2. と 3.1.2. を参照のこと。

/m/ + /p/ [mb]

/n/ + /t/ [nd]

/ŋ/ + /k/ [ŋg]

/n/ + /s/ [ɲdʒ]

これらの子音結合以外に、音節主音的鼻音の接辞 /m/ (3.2. 参照) あるいは音節主音的ではない鼻子音 1 音からなる接辞 /n/ が子音からはじまる形態素に付加されるとき、形態素の境界で鼻子音と子音が重なることになる。その場合は次のような現われ方をする。閉鎖音、摩擦音については 2.2.3. と重複するものもあるが、まとめて示す。

形態素 m- + 子音

「彼を～する」

/m/ + /p/ → [mp]

[mpɔkʰɛ:la]

/m/ + /β/ → [mβ]

[mβeŋga]

/m/ + /m/ → [mm]

[mmãɲ:ã]

/m/ + /t/ → [nt]

[ntupʰu:la]

/m/ + /s/ → [ɲtʃ]

[ɲtʃulu:sa]

形態素 n- + 子音

「私は～する」

/n/ + /p/ → [np]

[npɔkʰɛ:la]

/-pɔkɛla/ 「迎える」

/n/ + /β/ → [nβ]

[nβeŋga]

/-βeŋka/ 「追う」

/n/ + /m/ → [nm]

[nmãɲ:ã]

/-mãɲa/ 「知る」

/n/ + /t/ → [nt]

[ntupʰu:la]

/-tupula/ 「引抜く」

/n/ + /s/ → [ɲdʒ]

[ɲdʒulu:sa]

/-sulusa/ 「売る」

/m / + /l / → [ɱ]	/n / + /l / → [ɳ]	
[ɱɛ̃:la]	[ɳɛ̃:la]	/-ləla/ 「育てる」
/m / + /n / → [ɱ]	/n / + /n / → [ɳ]	
[ɱnũ:hã]	[ɳũ:hã]	/-nuha/ 「嗅ぐ」
/m / + /ɖ / → [ɱɖ]	/n / + /ɖ / → [ɳɖ]	
[ɱɖɛ:ɲã]	[ɳɖɛ:ɲã]	/-ɖɛɲa/ 「砕く」
/m / + /ʒ / → [ɱʒ]	/n / + /ʒ / → [ɳʒ]	
[ɱʒimũhã]	[ɳimũhã]	/-ʒimuha/ 「起こす」
/m / + /p / → [ɱp]	/n / + /p / → [ɳp]	
[ɱpũ:hã]	[ɳũ:hã]	/-puha/ 「揺らす」
/m / + /k / → [ɱk]	/n / + /k / → [ɳk]	
[ɱka:ŋga]	[ɳga:ŋga]	/-kaŋka/ 「押す」
/m / + /ɣ / → [ɱɣ]	/n / + /ɣ / → [ɳɣ]	
[ɱɛ:ɣa]	[ɳɛ:ɣa]	/-ɣɛɣa/ 「背負う」
/m / + /ŋ / → [ɱŋ]	/n / + /ŋ / → [ɳŋ]	
[ɱŋãmũ:ta]	[ɳãmũ:ta]	/-ŋamuta/ 「夢見る」
/m / + /h / → [ɱh]	/n / + /h / → [ɳ̃]	
[ɱhõmbe:la]	[hõmbe:la]	/-hompila/ 「飛びつく」

いずれも調音点の同化は起こるが、/n/は続く子音に対して有声化を引き起こしているのに対して、音節主音的鼻音の場合には有声化は起こっていない。

## ②子音+半母音

半母音/w, j/は、常に他の子音と結合して現われる。/w/は/d, s, ŋ/以外の子音（半母音は除く）と結合し、/j/は/p, t, k, h, l, m/と結合する。

/p/ + /w/	[pw]	/p/ + /j/	[pj]
/t/ + /w/	[tw]	/t/ + /j/	[tj]
/k/ + /w/	[kw]	/k/ + /j/	[kj]
/h/ + /w/	[hw]	/h/ + /j/	[hj]



/β/ + /w/	[βw]	
/ʒ/ + /w/	[ʒw]	
/ɣ/ + /w/	[ɣw]	
/m/ + /w/	[mw]	/m/ + /j/ [mj]
/n/ + /w/	[nw]	
/ɲ/ + /w/	[ɲw]	
/l/ + /w/	[lw]	/l/ + /j/ [lj]

### ③ 鼻子音 + 閉鎖音・破擦音 + /w/

①の鼻子音と閉鎖音・破擦音の子音結合は、さらに/w/と結合できる。

/m/ + /p/ + /w/	[mbw]
/n/ + /t/ + /w/	[ndw]
/n/ + /s/ + /w/	[ndʒw]
/ŋ/ + /k/ + /w/	[ŋgw]

## 3. 音節

音節は開音節で、(N)C(S)V, N, V と構成される (N は鼻子音, C は半母音を除く子音, S は半母音, V は母音を表わす)。以下それぞれの例を挙げて、実際の現われ方を示す。音節の境界はピリオド (.) で表わす。

なお、[b], [d], [g], [tʃ], [dʒ], [ŋ] は音素ではないが、/ / で囲んだ音素表記以外の場合は、実際の音の現われ方をわかりやすくするためにそれぞれの音で表記する。音節主音的鼻音と接辞の n も同様に、調音点によって、m, n, ɲ, ŋ のように表記する。/β/, /ɣ/ に関しては、語彙集で用いたフォントとの関係で、それぞれ b, g の文字を用いて表記することにする。

### 3.1. (N)C(S)V

#### 3.1.1. CV

最も基本的なンデンデウレ語の音節構造である。半母音以外の子音は、あらゆる母音との組み合わせが可能である。

mata	ma . ta	「唾」
magela	ma . gɛ . la	「鍬 (pl)」
likololo	li . ko . lo . lo	「コウモリ (sg)」

### 3.1.2. NCV

「鼻音＋閉鎖音・破擦音」の子音結合 (2.2.7.①) に母音が続いた音節。

ɲumba	ɲu . mba	「家 (sg,pl)」
lipanda	li . pa . nda	「枝 (sg)」
ɲaɲdʒa	ɲa . ɲdʒa	「湖 (sg,pl)」
liŋgoma	li . ŋɡo . ma	「羽毛 (sg)」

### 3.1.3. CSV

「子音＋半母音」の結合 (2.2.7.②) に母音が続いた音節。母音は、/w/の後ろでは/u/以外の母音、/j/の後ろでは/i/以外の母音に限られる。

kikwemula	ki . kwe . mu . la	「櫛 (sg)」
kihegwa	ki . he . gwa	「木 (sg)」
luhjobu	lu . hjo . bu	「爪 (sg)」
kupjega	ku . pje . ga	「料理が完成する」

### 3.1.4. NCSV

「鼻音＋閉鎖音・破擦音＋/w/」の子音結合 (2.2.7.③) に母音が続いた音節。

kumbwani	ku . mbwa . ni	「岸」
kingweko	ki . ŋɡwe . ko	「しゃっくり (sg)」
aɲendwili	a . ɲe . ndwi . li	「戸を閉めた」
luɲdʒwemba	lu . ɲdʒwe . mba	「ひげ (sg)」

### 3.2. N

/m/は、後ろに母音を伴わずに単独で音節主音的鼻音として立つことができる。音節主音的鼻音は、後続する子音と同じ調音点で現われる（後続する子音が /h/ の場合は[ŋ]）。これらはひとつの音素 /m/ の異音であるが、さらにこれは形態素 mu- の異形態<sup>2)</sup>で、それ以外の現われ方をすることはない。つまり音節主音的鼻音は、複数音節の形態素内ではなく単音節形態素としてのみ現われる。

ntfikana	n . tʃi . ka . na	「女の子 (sg)」
ŋkambɔ	ŋ . ka . mbɔ	「水浴び用の瓶 (sg)」
kumpala	ku . m . pa . la	「彼を必要とすること」

### 3.3. V

形態素頭にのみ見られる。

anda	a . nda	「後で」
ibena	i . be . na	「2つ」

## 4. 声調

現在のンデンドウレ語には声調の音韻対立はなく、基本的に次末音節が高く現われる。これは母音の長さに音韻対立がないことと並んで、ンデンドウレ語とマテング語の最も顕著な違いのひとつである。マテング語の声調による最小対がンデンドウレ語では同音異義語になることもある。

#### <マテング語>

/lihína / [lihî:nã] 「幹 (sg)」      /lihíná / [lihî:nã] 「名前 (sg)」

#### <ンデンドウレ語>

/lihína / [lihî:nã] 「幹 (sg)」      /lihína / [lihî:nã] 「名前 (sg)」

しかしながら名詞を単独で何度か発音してもらうと高声調が語頭音節に現われることが

少なからずあった。そのほとんどが次末音節との「ゆれ」であったが、常に語頭音節に高声調が現われたものも僅かながら存在する（資料の語彙表\*印）。ただしこれらも単独でなければその他の名詞と差がなくなる。

## 5. 終わりに

限られたデータと分析からではあるが、以上が現時点で明らかになったンデンデウレ語の音韻概要である。残る課題はもちろん山積みであり、書きながら浮かび上がった問題点も少なくない。その中で最も気になっているのが /d/ の存在である。この音の位置づけ、特に /l/ との関係性を詳しく調べる必要がある。

筆者はこれまでマテング語の記述研究を行なってきたが、先に述べたような歴史背景をもつンデンデウレ語とマテング語の比較研究は言語変容を知る上で極めて有益であると思われる。今後さらにンデンデウレ語の調査を進め、マテング語との比較研究に発展させていきたいと考えている。

### <謝辞>

ンデンデウレ語の現地調査は、2001年度学術研究（海外調査）「アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態」（代表：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授 梶 茂樹）による。またマテング語の現地調査は、1996～1998年度学術研究（海外調査）「東アフリカにおける地域共通語に基づく文化圏生成とエスニシティの構造」（代表：大阪外国語大学教授 宮本正興）による。記して感謝の意を表わしたい。

## 注

- (1) 「マテング」という名称は“kitengu「森」”に由来し、ンゴニから逃げ住んだ山岳地帯の「森に住む人々」を意味すると言われている。「ンデンデウレ」という名称は、ンゴニの攻撃に逃げ惑う人々が口にしていた“ndenda bole「私はどうすればいいのだ」”に由来すると言われている。いずれの名称もこれらがンゴニの襲撃後にまとまったグループであることを示している。
- (2) mu-は1, 3クラスの名詞接辞と三人称単数の目的格接辞である。直後に子音が続く場合は母音が脱落し、/m/だけになる。これが音節主音的鼻音として現われる。

<資料：ンデンドウレ語とマテング語 基礎語彙 200 語対照表>

「バントゥ諸語語彙調査票試案」（湯川 1977）の中に記されているバントゥ語重要基本単語 200 を挙げる。ンデンドウレ語は声調の対立がないので表記していないが、常に次末音節が高く発音される。マテング語には、その単語が単独で発音される場合の声調を記す。基本的にンデンドウレ語は Namabengo 村で話されているもの、マテング語は Litembo 村で話されているものである。両村ともそれぞれの民族の中心的居住地である。表中の[Nam]は Namabengo 村よりも東にある Namtumbo 村、[Mpapa]は Litembo 村よりも西にある Mpapa 村の略で、それぞれの村で使われている単語を挙げている。

	日本語	ンデンドウレ語	マテング語
1	頭	mutu - mitu	umûtu - mimûtu
2	髪	lizundzu - mazundzu	lidzundzu - mád3undzu
3	目	lihu - mihu	lihu - mîhu
4	鼻	mbulu - mbulu	îmbulu - ímbulu
5	口	ngomo - milomo	ngomo - mîlomo
6	舌	lulimi - milimi	lulimi - ínimi
7	歯	linu - minu	linu - mînu
8	ほほ	litama - matama	lúkûta - mákûta
9	耳	lisikilo - masikilo	likûtu - makûtu
10	首	hingo - hingo	hingo - hingo
11	身体	meli - mjeli hjege - hjege [Nam]	hjêga - hjêga
12	皮膚	kimbendela - imbendela kikumba - ikumba	lúkanda - ngânda
13	肩	libega - mabega	li:bega - mábega
14	乳房	libele - mabele	libeli - mábeli
15	腹	lutumbu - matumbu	lútumbu - índumbu
16	背中	ngongo - migongo	ngongo - migoogo
17	尻	litaku - matak	litaku - mátaku
18	腕	luboko - maboko	kúboku - máboku
19	指	lungondze - ngondze	lúkondzi - ngôndzi
20	爪	luhjobu - hjobu	sôbu - hjôbu
21	脚	lugenden - magenden	kúgolu - mágolu
22	ひざ	lizoga - mazoga	ligóti - mágóti
23	骨	lihupa - mahupa	li:hupa - máhupa
24	血	mwahe	mwâhi
25	心臓	mwozo - mjozo	mwôdz - mjôdz nitima - mítima
26	肝臓	kibendi - ibendi	li:mani - ímani
27	涙	liholi - maholi	li:holi - máholi

28	息をする	kupomulela kukeka	kúpomola
29	唾	mata	imâta
30	見る	kulola	kúlola
31	聞く	kuzoha	kúdzogwa
32	傷	kilonda - ilonda	kílonda - ílonda
33	腫れる	kutupa	kúhimba
34	吐く	kutapika	kútapika
35	視覚障害者	zwanğalola - banğalola	ngalola-akanğalola
36	治る	kulama	kúlama
37	伝統医	nganga - baganga	ńganga - áganga
38	着る	kuhwala	kúhwata
39	洗濯する	kusapa	kúsapa
40	干す	kuzanika	kúdzanika
41	縫う	kusona	kútota
42	水浴する	kusamba kuzoga	kúhoga
43	塩	mwipu	mwîpu
44	油	mahuta	máhuta
45	料理する	kuteleka	kúteleka
46	焼く	kuzosa	kúdzosa
47	食べる	kuljega	kúlja
48	吸う	kuzonga	kúdzonga
49	飲む	kupega	kûpa
50	空腹	ndzala	índzala
51	腐る	kubola	kúbola
52	家	pumba - pumba	pûmba - pûmba
53	建てる	kusenga	kúsenga
54	ほこり	lutukunda	luhõmbi
55	父	tate - akatate	atâti - ákatâti
56	母	amaze - akamaze mabo - mabo [Nam]	amâbo - ákamâbo
57	子	mwana - bana	mwâna - bâna
58	妻をめとる	kutolela	kútogola
59	嫁ぐ	kutolela	kútogulela
60a	夫	ngana - bangana	álomi / ñlomi - ákālomi
60b	妻	ñala - badala	áhanu / ñhanu - ákăhanu
61a	産む	kupapa	kúbeleka
61b	生まれる	kubeleka	kúlakeka
62	名前	lihina - mahina	lihîna - mähîna
63	育つ	kulula	kúkola
64	人	mundu - bandu	mûndu - bându
65	死ぬ	kuhwega	kûha
66	犬	ligalu - magari	dzimbwa - imbwa

67	噛みつく	kuluma	kúluma
68	牛	ŋɔmbe - ŋɔmbe	ŋômbi - ŋômbi
69	乳を絞る	kumɪna	kúkaba
70	豚	ligolobi - magolobi	ligólobi - mágolobi
71	山羊	mbuhi - mbuhi	ímбуhi - ímbuhi
72	動物	mupama - ipama	kípama - ípama
73	ライオン	lihimba - mahimba	lihimba - máhimba
74	象	ndembo - ndembo	ndêmbu - ndêmbu
75	カバ	---	ndomôndo - ndomôndo
76	尻尾	ŋkela - mikela	ŋkela - míkela
77	狩する	kubenga	kubenga (後を追う)
78	弓	mpendi - mpendi	úpendi - mípendi
79	突き刺す	kukoha	kúhuma
80	わな	ntego - mitego	kítaba - ítaba
81	肉	pama - pama	ípama - ípama
82	蛇	lizoka - mazoka	lîdzoka - mádzoka
83	蟹	---	lindzégi - mándžégi
84	魚	homba - homba	homba - homba
85	鳥	kizuni - izuni	kídзuni - ídzuni
86	卵	lihombi - mahombi	lihómbi - máhómbi
87	翼	lipapanilu - mapapanilu	kípatila - ípatila
88	飛ぶ	kumbuluka kúgoloka [Nam]	kúgoloka
89	蜜	kingwendze - ingwendze	búsi
90	蚊	lundzëndzema - indzëndzema	lundzëndzema - ndzëndzema
91	木	ŋkɔŋgu - mikɔŋgu	ŋkɔŋgu - míkɔŋgu
92	葉	lihamba - mahamba	lihamba - máhamba
*93	花	liloba - máloba	lîloba - máloba
94	種	mbezu - mbezu	lúmbedzu - ímbedzu
95	根	ŋkega - mikega	ŋkega - míkega
*96	果実	úhohi - míhohi	lutúnda - mátúnda
97	畑	lituhi - matuhi ŋgunda - migunda	litúhi - matúhi ŋgonda - mígonda
98	耕す	kulema	kúlema
99	くわ	ligela - magela	lîgela - mágela
100	刈り取る	kuhuna	kúhuna
101	横になる	kugoloka	kúgoloka
102	立つ	kuzema	kúdzema
103	座る	kutama	kútama
104	行く	kuzabula kuzenda	kúdzenda
105	来る	kubuza kuhuma (～から来る)	kúhika
106	入る	kuzingila	kúdzingila

107	出る	kupita	kúpita
108	帰る	kukelabuka (see 105)	kúbudza kúkelabuka (戻る)
109	着く	kuhika	kúhika
110	通る	kupeta	kúpeta
111	道	ndela - ndela	indéla - indéla
112	作る	kutendekeha	kúlenganakea
113	火	mwoto	mwôto
114	灰	liho	lihu
115	煙	ljohé / mahjohé	lihjôhi
116	燃える	kuzaka	kúpaka kúzaka [Mapapa]
117	消す	kuhimiha	kúsusua
118	火にあたる	kuzota	kúpata kúzota [Mpapa]
119	薪	luhandzu - handzu	lúhandzu-hândzu
120	水	mase	mâsi
121	汲む	kuteka	kúteka
122	言う	kulongela	kúpwaga kúlongela (おしゃべりする)
123	呼ぶ	kukema	kúkema
124	遊ぶ	kukina	kúkina
125	歌う	kuzemba	kúdzemba
126	太鼓	ɲoma - ɲoma	íɲoma - íɲoma
127	投げる	kutaga	kúlekela
128	罵る	kuliga	kútondola kúliga (のろいの言葉を吐く)
129	殴る	kutoba kumeɲa	kúlimanga
130	与える	kupela	kúpekea
131	盗む	kuziba	kúdziba
132	会う	kukongana	kúketanganela kúhimanila
133	戦争	ɲgɔndu - ɲgɔndu	ɲgôndu - ɲgôndu
134	殺す	kukoma	kúkoma
135	笑う	kuheka	kúheka
136	泣く	kulela	kúlela
137	好む	kupala	kúpala
138	知る	kumapa	kúmapa
139	1	zimo	dzímo
*140	2	ibena	ibéli
*141	3	ítatu	itátu
142	4	ntʃetʃe	nsési
143	5	ɲhano	ɲhánó
144	10	komi	likômi



145	数える	kubalanga	kúbalanga
146	多くの (物)	hjamahela	hîngi
147	全ての (物)	hjoa	hjôha
148	持つ	kukamula	kúkamula
149	落ちる	kugwega	kúhabuka
150	拾う	kulokota	kútondola
151	引っ張る	kuhuta	kúhuta
152	押す	kukanga	kúka:nga
153	結ぶ	kukonga	kúkonga
154	曲げる	kupenda	kúpenda
155	切る	kudumula	kúsekula
156	破る	kuzwepula	kúkasula
157	上	kunane	kunáne
158	下	pahi	páhi
159	内	ŋkati	ŋkâti
160	外	pandza	pandza
161	赤い (物)	kikele	kikeli
162	白い (物)	kja ntŋope	kihûhu
163	黒い (物)	kipili	kidzîlo
164	太陽	ljoba	ljôba
165	月	mwehi	mwêhi
166	星	lundondo - ndondo	lútôndo - ndôndo
167	雲	lihundi - mahundi	líhundi - máhundi
168	雨	hula	îhjula
169	風	mpogu	ŋhwâi
170	吹く	kupoga	kúpoga
171	山	kitombe - itombe	kitômbi - itômbi
172	川	losi - losi	lôsi - lôsi
173	森	dasi - dasi	kítengu - ítenngu
174	沈む	kumila	kúhobela
175	渡る	kuzomboka	kúlomboka
176	カヌー	---	---
177	石	liganga - maganga	ílibu - ímabu
178	砂	mahjanga	hōko
179	穴を掘る	kugima	kúhola
180	埋める	kuhjelalela	kúhibalila
181	日	lipdzoba - mapdzoba lisoba - masoba [Nam]	ljôba - másoba
182	夜	kilu	ikilu
183	今日	lелenu	lélênu
184	年	mwaka - mjaka	mwâka - mjâka
185	良い (物)	kjamaha	kinjâhi
186	悪い (物)	kihakaho	kihákau
187	大きい (物)	kikolonga	kíkolônggu

188	小さい (物)	kisokombi	kisōko
189	長い (物)	kitandamahu	kilāsu
190	短い (物)	kihupi	kídžipi
191	重い (物)	kitōpehu	kitōpeu
192	寒さ	u3o3o3hu	kípepu
193	新しい (物)	kihjono	kinjáhi
194	他の (物)	henge	hjéngi
195	私	nennga	nénga
196	君	gwenga	gwénga
197	私たち	twenga	twénga
198	君たち	mwenga	mwénga
199	誰?	gani	ɲá:ne
200	何?	nike	kike

## 参考文献

- Ebner, Elzear P. 1987. *The History of the Wangoni*. Benedictine Publications, Peramiho.
- Gulliver, P. H. 1955. "A History of the Songea Ngoni." *Tanganyika Notes and Records* 41, 16-30.
- Guthrie, M. 1967. *The classification of the Bantu Languages*, Dawsons of Pall Mall, London.
- 米田信子 2000. 『マテンゴ語の記述研究 (バンツー系, タンザニア) —動詞構造を中心に—』  
東京外国語大学に提出した博士論文.
- 湯川恭敏 1979. 「バントゥ諸語語彙調査票試案」, 『アジア・アフリカ言語文化研究』17, 139-212.